

第4回ものづくり日本大賞で「特別賞」を受賞

このほど、弊社の技術者6名が、経済産業省「第4回ものづくり日本大賞」において、「特別賞」を受賞いたしました。産業用機器メーカーとして培ってきた伸線技術、ワイヤーフォーミング技術、樹脂コーティング技術、トルク技術という4つのコアテクノロジーを医療機器技術と融合させることにより、心筋梗塞などの虚血性心疾患のカテーテル治療で新たな治療方法を可能とする世界初の完全閉塞性ガイドワイヤーと貫通カテーテルの製品化に成功、これまで治療が困難とされてきた慢性完全閉塞病変の治療成功率向上に貢献したことが評価されました。

「ものづくり日本大賞」とは、日本の産業・文化を支えてきた「ものづくり」を着実に継承・発展させるため、「ものづくり」に携わっている各世代の人材の意欲を高め、その存在を広く社会に認知されることを目的に創設された内閣総理大臣表彰です。平成17年に第1回を開催し2年に一度の開催とされております。

「ものづくり日本大賞」につきましては、経済産業省のホームページより「ものづくり日本大賞」のページをご参照ください。

<http://www.monodzukuri.meti.go.jp/index.html>

産業を支えるものづくり／製造・技術開発部門 「特別賞」

～心筋梗塞などの虚血性心疾患の治療成績を向上させる
世界初の医療用デバイスの開発～



受賞のポイント

心筋梗塞などの虚血性心疾患のカテーテル治療で新たな治療方法を可能とする世界初の完全閉塞用ガイドワイヤーと貫通カテーテルを製品化。これまで治療が困難とされてきた慢性完全閉塞病変の治療成功率を98.9%まで向上させるなど医療分野における貢献度は大きく、患者のQOL(Quality of Life)向上にも貢献。

開発・実用化の背景、ストーリー

- 2005年に日本人医師により新たな心臓カテーテル治療方法(レトログレードアプローチ)が考案されたが、当時、その治疗方法を実現する医療用デバイスが存在しなかった。
- そこで、同社が産業機器メーカーとして培ってきたワイヤーフォーミング技術、樹脂コーティング技術、トルク技術、伸線技術という4つの技術のシナジー効果を医療機器技術と融合させることにより、その治疗方法を可能とする低侵襲治療用ガイドワイヤ(2007年)とカテーテル(2009年)の製品化に成功。
- 医師の「指先の微妙な動き」を「先端に忠実に伝える」ことが可能となり、微細な血管における狭窄部の治療が可能となるなど、医療に大きく貢献。

